

図 I - 27 大学の設置区分別博士課程（後期）修了後の進路に対する不安(%)

大学院の所在地別に博士課程（後期）修了後の進路に対する不安をみると、北海道で「非常に感じる」割合がやや高く、また四国地方で「どちらともいえない」とする割合がやや高くなっている。中国地方、九州・沖縄地方では「全く感じない」とする割合が他の区分よりも多くなっている。

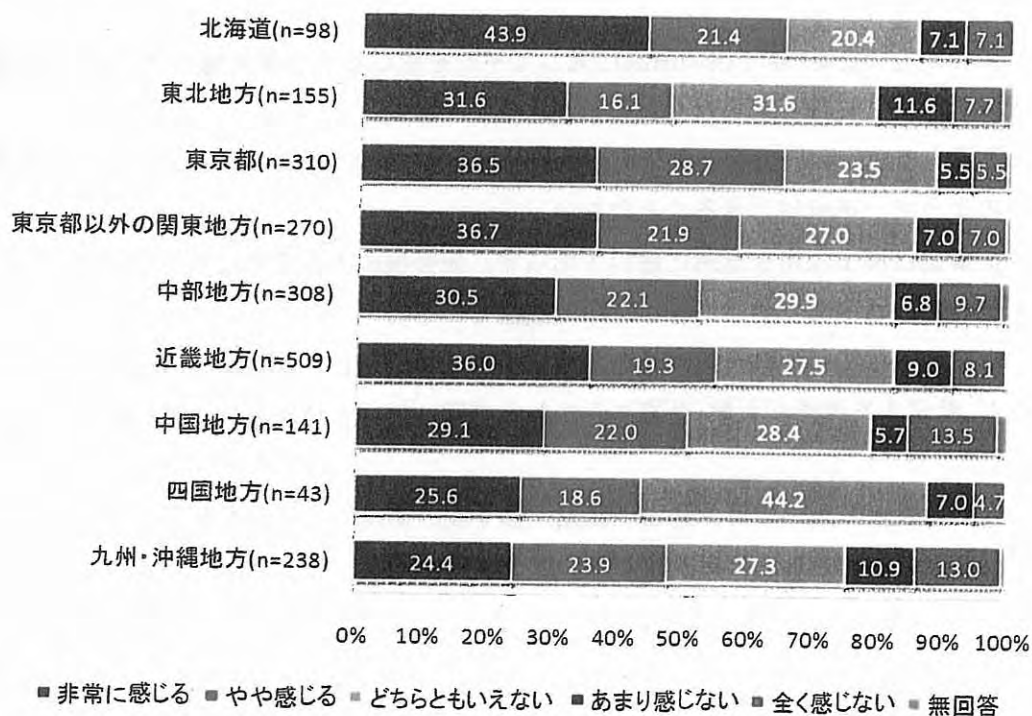


図 I - 28 大学院の所在地別博士課程（後期）修了後の進路に対する不安(%)

1.1 修了後の進路を検討するにあたって大学に望むこと

博士課程（後期）修了後の進路を検討するにあたって大学に望むことのトップは、「大学教員のポストの拡充」で 54%と半数を超える割合の回答があった。また、「博士課程修了人材に関する求人情報の提示」が 47%でこれに続いている。

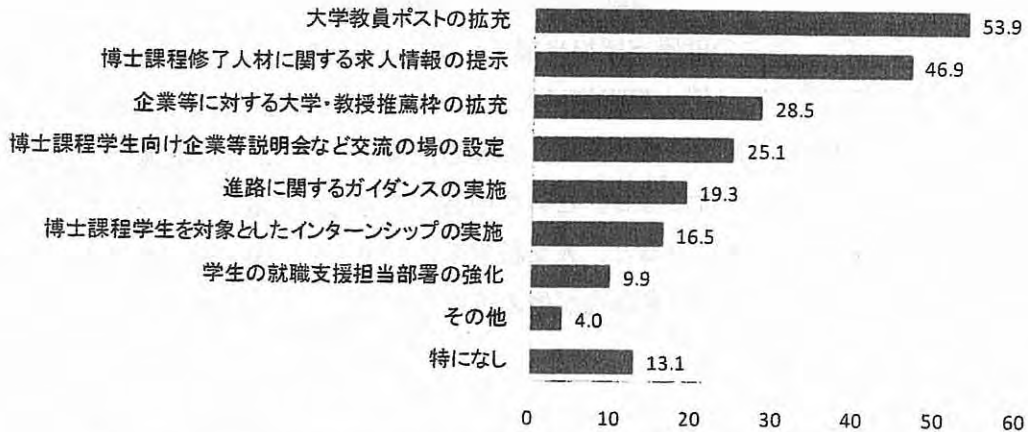


図 I - 37 修了後の進路を検討するにあたって大学に望むこと(n=2076)

「その他」の項目に具体的に記入された内容はさまざまであったが、

- ・ポスト制度の拡充・整備
- ・大学院修了者の価値を社会にアピールすること
- ・大学教員ポストの循環性・公正性

などの指摘が特徴的であった。

一方、大学の設置区分別に大学に望むことを比較したが、特に大きな特徴と思われる傾向は認められなかった。

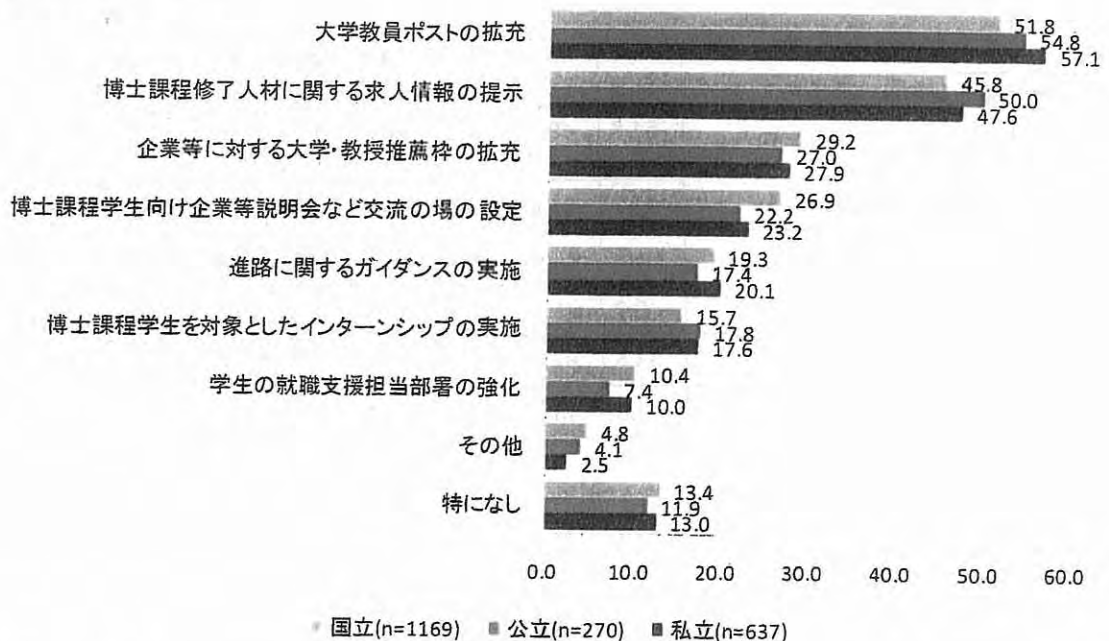


図 I - 38 大学の設置区分別の修了後の進路を検討するにあたって大学に望むこと(%)

これに対して、大学院の所在地別の修了後の進路を検討するにあたって大学に望むことにはいくつかの特徴がみられた。東京都では「大学教員ポストの拡充」を望む割合が他の地域に比べて高く、逆に中部地方と九州・沖縄地方ではこの割合が低くなっている。中部地方ではまた、「学生の就職支援担当部署の強化」を望む割合も他の地域よりも低くなっている。中国地方では、「博士課程修了人材に関する求人情報の提示」および「博士課程学生向け企業説明会など交流の場の設定」を望む回答がそれぞれ他の地域よりも多い。東北地方では、望むことが「特になし」という回答が他に比べて多いのも特徴である。

大学院の専攻分野別にみると、人文科学系と工学系で「博士課程修了人材に関する求人情報の提示」についての回答割合が他の専攻分野に比べて高くなっている。

表 I - 13 大学の所在地別の修了後の進路を検討するにあたって大学に望むこと(%)

	大学教員ポストの拡充	博士課程修了人材に関する求人情報の提示	企業等に対する大学・教授推薦卒の拡充	博士課程学生向け企業等説明会など交流の場の設定	進路に関するガイダンスの実施	博士課程学生を対象としたインターンシップの実施	学生の就職支援担当部署の強化	その他	特になし
北海道(n=98)	56.1	52.0	26.5	27.6	17.3	18.4	10.2	1.0	9.2
東北地方(n=155)	47.7	41.9	28.4	24.5	23.2	14.2	12.9	3.9	18.7
東京都(n=310)	60.3	46.5	28.7	24.8	20.6	15.5	11.9	3.5	10.3
東京都以外の関東地方 (n=270)	54.8	49.3	34.1	26.7	17.4	20.7	7.8	3.3	9.6
中部地方(n=308)	47.7	48.4	28.6	25.3	17.9	17.2	6.2	3.6	15.3
近畿地方(n=509)	59.5	45.0	27.7	23.4	19.8	15.3	10.8	4.9	12.2
中国地方(n=141)	48.2	46.8	30.5	21.3	18.4	14.9	12.1	2.8	18.4
四国地方(n=43)	53.5	62.8	20.9	41.9	20.9	20.9	4.7	2.3	7.0
九州・沖縄地方(n=238)	46.6	45.0	24.8	26.5	18.9	16.0	10.5	6.3	16.0

1.2 博士課程（後期）における教育研究の内容について大学に望むこと

博士課程（後期）における教育研究の内容について大学に望むことについては、最も望まれているのが「国際学会等への参加支援の拡充」（41%）で、以下に「海外大学への留学機会の拡充」（36%）、「複数の専門分野に係わる教育研究」（36%）が続いている。キャリア教育やキャリア実習（インターンシップ）への要望はそれほど高くはなく、研究能力を高めるための教育内容が望まれている。

「その他」の項目に具体的に書かれた内容は、次の設問の回答と重複する部分が多いが、

- ・ 図書館やオンラインジャーナルの充実
- ・ 学会参加費等の研究費支援
- ・ 学生の生活費支援（TA、RA、奨学金などの充実）
- ・ 英語教育の充実

などが比較的多く指摘されている。

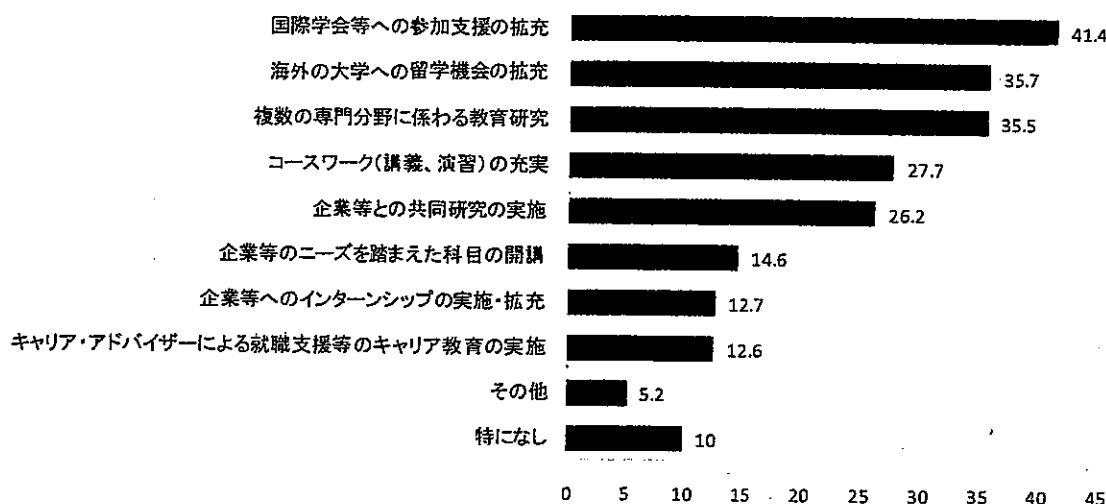


図 I - 39 博士課程（後期）における教育研究の内容について大学に望むこと(n=2076)